平成29年度公益信託うつくしま基金助成事業

伝えたいふるさとの宝物

松川町の史跡・文化財等 ガイドマップ

ガイドマップ掲載の史跡・文化財等一覧

地区	番号	名称	地図No.	説明
水原	1	クマガイソウ群生地（鎌倉山）	E-2	全国指定の自生の群生地
	2	笹森山テレビ塔（南沢）	F-2	福島地区の電波報道の中核となる中継塔
	3	洞雲山泉龍寺（石内）	B-1	結林寺の最初の末寺
	4	水原神社（石内）	B-1	別称：鎮守進武大神
	5	三島明神（三島）	C-1	加藤一族の氏神
	6	愛宕鉛跡・愛宕神社（山根）	C-1	加藤金兵衛の居城跡
	7	丸池地蔵堂（寺方）	C-1	月野家の先祖を供養する地蔵
	8	水原山観積寺（寺方）	C-1	本酒の子安観音像・三体地蔵尊の一つ
	9	鹿島神社（脇ノ久保）	C-1	水原を一望する境内
	10	仙台内前遺跡（仙台内前）	C-1	福島市最古の縄文遺跡
	11	黒沼神社（宮ノ下）	C-2	二柱の二神体を祀る
	12	関根石塔群（神明山）	C-2	道路の法な斜面にある石塔群
	13	宇輪台遺跡（石輪台）	C-1	しだれ桜老木と型穴住居の模型
	14	稲荷神社（上道谷地）	D-1	上道谷地集落鎮守の氏神
	15	八雲神社（上谷地）	D-2	通称天王さま
	16	上不動尊堂（不動前）	D-2	巨石に線刻の三十三観音像
	17	日向山不動院（日向山）	D-2	三本天美の書
	18	風神・雷神神社（熊ノ田）	C-2	二神を祀る
	19	西郷の夫婦桜・狐ノ稲荷神社（竹ノ内）	C-2	樹齢約 800 年
	20	經王山立正院（信夫隠）	D-3	恒例の規定行列
	21	信夫隠の歌舞、模倣舞楽（信夫隠）	G-3	情緒あふれる歌舞と交通の要所
	22	庚申道標（伊勢）	G-3	米沢街道と水原街道の分岐
	23	八丁目城跡（愛宕）	G-4	戦国時代の山城
	24	源詰神社（源詰山）	G-4	三つの城郭（大島屋、本殿の彫刻、源詰山の桜）
	25	長津山常願寺（水晶沢）	G-4	子安観音と 27 体の石仏群
	26	源詰山常光院（源詰山）	G-4	本山は真言宗聖生寺
	27	天龍山観林寺（本町西僧）	G-4	伊達政宗が再建したお寺
	28	唯時山常念寺の石碑（中町）	G-4	巨大な石碑が 3 体、南無阿弥陀仏の碑
	29	馬桜奈浦屋跡（本町）	G-4	昭和 45 年に川崎市民家園へ移築
	30	稲荷神社（中町）	G-4	境内に戦没者の二基慰霊記念碑
	31	原田山西光寺（町裏）	H-4	本尊阿弥陀如来坐像（県指定重要文化財）
	32	めがね橋（天狗橋）	H-4	空石積工法による名橋
	33	平龍神（平龍）	H-4	松川三龍の一つ
	34	天満天神宮（八丁目）	H-4	高遠の武の石工作、大きな宗夜灯
	35	八丁目信本陣跡（本町）	G-4	大名毒の休憩・宿泊所、問札あり
	36	青森・黒島神社（青森山）	F-5	中風の神様
	37	馬頭観世音百観像（石合町）	G-5	三面八臂の光背像
	38	六地蔵清標（石合町）	G-5	奥州街道の合流点
	39	観排稲荷神社（石合前）	G-6	源義家が戦を祈願という巨石
	40	仙台観音堂・観排（土合堂）	H-6	初夏のアジサイが見頃
	41	天明石・降石（梨木内・降石）	H-5	昔、隕石と言われた二つの石
	42	恵十一面千手観音百観（原）	H-5	松森神社の観音堂
	43	八坂神社（天王原）	C-4	さゅうり天王様

ガイドマップ掲載の史跡・文化財等一覧

地区	番号	名称	地図No.	説明
金谷川（関谷）	44	愛宕観音地蔵尊堂（高森）	B-2	客道者名の入った天井絵
	45	薬師堂（高島谷）	B-3	弘化 2 年の薬師如来御堂再興勧化簿
	46	八幡神社（中田）	B-3	本殿裏にある関谷村発祥と言われる岩屋
	47	子安観音（前越）	B-3	新信夫三十三観音第 22 番札所
	48	義民・惣左衛門供養塔（諏下）	B-3	享保の一揆で処刑された義民の供養塔
	49	柔石（かごおいし）（柔石）	B-3	輝に関する伝承巨石
	50	宇佐八幡神社（神ノ前）	B-3	関東以北で唯一の宇佐本宮の末社
	51	船橋観音堂（川向）	B-3	観音の三十三観音像の石碑
	52	阿弥陀堂（若宮）	A-3	足の悪い旅人が参納したおれの石打鎌
	53	八幡神社（若宮）	A-3	参拝後に本殿裏側の彫刻を見るべし
	54	富士浅間神社（神ノ前）	B-3	樹齢 300年のイタヤカエデの古木
	55	黒沼神社（木戸前）	A-4	伊達政宗怪異の久蔵殺
（浅川）	56	カクラリ群生地（殿）	B-4	約 30,000 株の群生地
	57	大日如来の道標（板取）	A-4	台座に「右はあいたさへ 左は田沢へ」
	58	船渡観船唱碑（船橋）	A-5	往時を偲ぶ石畳の小路
	59	鎮現大郎神社（豊根沢）	A-5	祭神は百代王神、流川磨吉の神社
	60	阿武隈峠遊歩道（浅川）	A-5	浸食による阿武隈川の谷岩、岩壁
	61	田村宿神社堂（浅川・金沢の両地区間）	B-2	向かい合ったこつの地蔵堂
	62	成田山不動尊堂（丸石）	B-3	成田山新勝寺の分堂
	63	聖観音堂（平石）	B-4	三十三観音像の石仏
	64	松系桜伊勢塚（盛子内）	B-4	戦国時代の桜の木の記念
	65	黒沼神社（宮の前）	B-4	羽山こもり、十二神楽／奉納無形民俗文化財
	66	金澤山水二寺（明内）	B-4	鎌倉時代の地頭の墓・天明の飢饉飢死者供養
（金沢）	67	黒内観音・原の道路（原内）	B-4	鎌倉時代の地頭の墓跡
	68	鷹方鉄砲組の墓（金沢地内４カ所）	B-5	墓末の水戸天狗党の乱で戦死、福島藩の鉄砲組
	69	芳水の板碑（深沢）	C-4	地面に映さる遠さの板
	70	永仁の板碑（立石）	C-5	阿弥陀三尊物の梵子。市内最古の板碑
	71	観音堂（十一面観世音百観）（川前）	C-5	新信夫三十三観音第 18 番札所（別当永仁寺）
	72	鎮守山道泉寺（北）	C-5	本山は道賢泉の三井寺である
	73	黒沼神社（北）	C-5	曹は美野尻大神神と神した
	74	天満宮神堂（日向）	D-5	菅神を祀る
	75	妙見堂（日向）	D-5	馬の育成地
	76	薬師堂（戸ノ内）	D-5	多くの観音石仏
	77	聖観音子堂（戸ノ内）	D-5	貴重銀貨の額いを込めて私財提供
下川崎	78	竹姫稲荷神社（佐久間）	D-5	京都伏見稲荷神社の末社
	79	姫野神社・姫野観音（姫沼屋山）	D-5	金鈴の姫様
	80	金曜牛頭天王（戸ノ内）	D-5	本社は京都八坂の牛頭天王社
	81	天満宮舞（越田）	D-5	寺子屋教育に力を注いだ先生
	82	大山不動尊（越田）	D-6	源義家が戦勝祈願
	83	大神宮舞（越田）	D-6	下川崎を一望する展望台
	84	観音堂（越田）	D-6	苦難から脱却をもって救われる仏像
	85	松森神社の観音様（上ノ内）	E-6	街道と農民の歴史を語る観音様
	86	八幡神社（坂ノ下）	E-6	源義家が馬を繋いだという桜の古木

福島市役所松川支所・学習センター入口横の案内板

ガイドマップについて

このガイドマップは、福島市役所松川支所・学習センターの門の横に「松川地区史跡・文化財案内板」（上記）が設置されたことに伴い、それら文化財等の解説と場所を案内し、多くの町民及び来訪者の便宜を図るものとして作成しました。案内板に記載された 55 か所の他、各地区にある貴重な神社・仏堂・農観等を加え、併せて 86 箇所の案内を行うものとなりました。

○一覧表には索引と共に、一言の特徴等を記載し、楽しめるものにしました。

○水原・松川・金谷川・下川崎の順に番号をつけました。

○地図には、上下両横に記号番号を付けて対象施設を探し易くしました。

○全て会員が現地を調査・取材し、写真等の撮影を行い、解説文を記しています。

※神社・仏堂等によっては、参道や周囲が荒れている場所もあります。行動しやすい服装や靴を履いて参拝・見学をしてくださるようお願いします。

◎参考文献等◎

下記に記した書籍のほか多くの書籍文献を参考にしました。

○松川町文化財　○八丁目誌　○松川の伝承と方言　○ふるさと探訪　○心の文化財

○金澤のむらの誌　○小学校の 100 周年記念誌等（各地区）　○福島市総合計画後期基本計画　ほか

作成：松川町文化財保存会

協賛：松川町観光協会／松川町商工会／松川町商工会青年部／福島松川ライオンズクラブ

松川まちづくり委員会 21／金谷川活性化委員会 21／活性化集団水原 21／下川崎地区町会委員会

福島・松川八丁目宿場町（FACE TO FACEコミュニケーション）交流企画実行委員会

協力：福島市教育委員会

31 原田山西光寺

町裏　H－4

恵美の分銅

県指定重要文化財　木造阿弥陀如来坐像（写真・西光寺提供）

当山は住吉には宿地にあったと言われている。草創については詳らかでない。現在の地に移るのは、16世紀伊達家14代輝宗が八丁目城を築き、城下町が成立したときと思われる。

江戸時代に入り、正保年間（1644 ～ 1647）に火災に遭うも聞清法印が再興し、境域を整える。

本堂には、本尊木造阿弥陀如来坐像（県指定重要文化財）を安置する。宝暦 10 年（1760）奈良東大寺より当山に迎えられたもので、平安時代末期に作られた珍陀ざくりの美しい木像である。

他に、十一面観音像（室町時代）、不動明王像（元禄時代）等を祀る。境内には、芭蕉の句碑、八丁目文化を代表する加藤美明の句碑、天明の大飢饉の際の跡を辿ったという夜音稲、江戸時代後期の行司式守藤七の墓、馬頭観音像、庚申塔など、多くの古跡がある。

天明大飢饉の夜音稲

松川町の概要

鮎渕の渡しから見上げる上蓬莱橋

地元産のそば粉で打つ藤八そば

松川町は、福島市南端の丘陵地にあり、西には笹森山など700メートル前後の山が連なり、その麓から水原川が町の中央を東西に流れ阿武隈川に注いでいます。交通は、国道４号、東北縦貫自動車道、そしてＪＲ東北本線が南北に縦断し、松川駅、金谷川駅、松川スマートＩＣが交通の拠点となっています。

■豊かな自然と花咲く町

４月はカタクリの花が開くと、すぐに金沢の雪水の桜、板飛稲荷のしだれ桜、諏訪山の桜、西郷の夫婦桜、右輪台のしだれ桜重本と松川の町中が桜の花であふれます。下川崎の弥勒内沼の桜もあり、また美剛団地では団地の斜面いっぱいに咲き誇り、下の道路はまさに花の通りとなります。

５月は水原のクマガイソウの里まつり、７月は土合観公園のあじさい祭と続き、あじさい路では「松川と花の案内人」が松川の歴史と花の案内の活動をしています。

演指定の鎌倉び天赤紙念物の阿武隈峡、市指定の妖存樹、水原川沿いに広がる田園風景、めがね橋の雷魚色など、四季を通して美しい自然に囲まれています。

■歴史と伝統行事

市内各吉のむら跡といわれる仙台内前遺跡をはじめとする多くの縄文遺跡、戦国時代の城跡「八丁目城跡」、江戸時代に発展した奥州街道の主要な宿場町「八丁目宿」、それらに関連する多くの史跡・神社仏閣などが松川の歴史を感じさせてくれます。

そして東部王町と八町連合の併せて13台の提灯山車が練り歩く松川提灯祭りや、金沢の黒沼神社で行われている国指定重要無形民俗文化財の羽山こもり、異指定の十二神楽などの伝統行事があります。

西光寺には県指定重要文化財「木造阿弥陀如来坐像」が本尊として安置されております。

■まちおこしイベント

宿福町交流フェスティバル、ルーラル・ジョイントコンサート、クマガイソウの里祭り、あじさい小路、新そば祭り、にんじん祭り（収穫感謝祭）など地域を活性化するイベントが各地で行われています。

土合観公園のアジサイ

松川提灯祭り

65 黒沼神社（金沢）

宮ノ前　B－4

■羽山ごもり
国指定重要無形民俗文化財
■十二神楽
県指定重要無形民俗文化財

羽山ごもり（ヨイサア）

祭礼に奉納する十二神楽

黒沼神社は県でも数少ない延喜式内社で、領武命（ヤマトタケルノミコト）と淳中倉太玉敷命（ヌナカクラフトタマシキノミコト）を祭神として祀る。治安３年（1023）に月輪より現在地に遷座する。明治維新後、村社に列せられたが、無社への昇格を要望し、明治 29 年に郷社となった。祭礼は明治の大祭統一により４月３日（現在は４月の第一土日）になった。

羽山ごもりの神事は、金沢村を開拓した先人たちが難難辛苦に堪えるために、羽山信仰を取り入れたもので、旧暦の11月１日から18日までの３日間行われている。村の男子が別火と本祈願を取って籠り家にこもり、羽山の山上で豊年！年のご祈宴を受けるものである。

昭和 55 年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

十二神楽は、祭礼の２日目に奉納されているが、元和３年（1617）に村人を江戸へ派遣し、修得して祭礼に奉納したことが起りとされ、現在まで連綿と保存伝承されている。昭和 55 年に県の重要無形民俗文化財に指定された。

1 クマガイソウ群生地

鎌倉山　E－2

強ヶ森のバス停から徒平方面に 1.5ｋｍ程進むとクマガイソウ自生地への入口に着く。広い駐車場がある。クマガイソウはラン科の多年草で観賞価値の高い野草のために園芸用に採取され自生地が激減している。環境省の絶滅危惧Ⅱ類。福島県はさらに強い絶滅危惧Ⅰ類に指定している。広く群生する自生地としては、水原を含め全国でわずかしか確認されなくなった。

地元では、水原のクマガイソウを守るため「水原の自然を守る会」を設立し、「クマガイソウの里祭り」を開催して祭りの期間中だけ一般公開をしている。

2 笹森山テレビ塔

南沢　F－2

笹森山は標高 649.9m、松川で最も高いいである。昭和 33 年（1958）にＮＨＫのテレビ中継所建設のための自衛隊によって約 5ｋｍの笹森山道路が造られ、翌昭和 34 年（1959）に建設されたＮＨＫをはじめ、今では民放のテレビアンテナが林立している。

三角点は、北西のＮＴＴのパラボラアンテナのある山頂。さらにその北の 621m の山頂は羽山と呼ばれ、弘化２年（1845）と記された石の碑があり、かつて東北の各地にみられた羽山信仰の名残りがある。

3 洞雲山泉龍寺

石内　B－1

本尊は観音寺尼仏、普賢菩の寺院である。石内の高所にあり、山門と六角二階の鐘楼が残っている。本山は禅井県の永平寺。当寺は弘治 3 年（1557）当地の愛宕鉛の城主、加藤金兵衛之郎基樹が、山根地内に七千坪と及ぶ広大な境内を設けて「一藩峰泉寺」を創立した。郡下の兵士や住民の生を慰めるため、小田の藩結寺第三世観周呼禅和尚を祥請して建立したものである。当寺第三世の代、台風により堂塔伽藍が倒壊したが、宝永 2 年（1705）現在の石内地内に再建された。

4 水原神社

石内　B－1

長い石段を昇ると真新しい社殿がある。東日本大震災により石灯籠が倒壊し、翌年復興によって社殿が倒壊したが、氏子により建て替えられた。大日霊貴命（オオヒルムチノミコト）、天照大神の別名）を祀る。建立は永正（1504 ～ 1521）の頃に遡るとされる。加藤金兵衛が水原村の山麓に居館を構えて領主となった時、神社は居館から西と東の間（北条の方角）、いわゆる鬼門にあたるその祈願所（水原神社）と修験東光院院（後述）を召命して「結寺鬼法大明神」と改称、供米田として宮田地内の土地二反三畝を寄進した。神社は明治 2 年（1869）に水原神社と改名され、地租改正により宮田の字は石内に改められた。

5 三島明神

三島　C－1

三島明神は水原字三島の竹林にあり。三島地区の加藤家七軒の氏神として奉じられる小社である。

建立は古く天文（1532～1555）の代に遡るもので、当地開発に尽力のあった加藤金兵衛の守り神であったと伝えられている。御神体は古く伊予大三島明神より受けたものと言われており、木彫で尺余り、神付きの立像である。尚、大山祇命（オオヤマツミノミコト）と菊花紋が合祀されている。

また、昭和36年に社殿を改築した際、中から白蛇が現われて驚いたが、以前から白蛇の絵馬が多い。この三島明神には守りの白蛇がいると噂されていた。

6 愛宕鉛跡・愛宕神社

山根　C－1

愛宕鉛は、水原川西側の山地に延びた丘陵に位置し、東西 650m、南北 200mの規模を有する鉛である。永禄年間（1558～1570）に築城された加藤金兵衛の居城と伝えられる。

中央部分の西側一帯が鉛の主郭で、最も保存状態が良好である。石垣山頂の主郭を中心とした郭城を二の字状に構造を配し、東側に土塁が設けられている。この現存する空堀の規模は大きく、高低差が 10mほどある。主郭があった場所には愛宕神社が祀られている。加藤金兵衛の居城を偲び、地元有志が明和６年（1769）に建立したもので、結婚改智命（カグツチノミコト、火の神）を祀っている。現在、周囲は竹林となっている。

7 丸池地蔵堂

寺方　C－1

水原の寺方地内にあり、本地区の旧家月野家の守り地蔵と言われ、延命地蔵尊が安置されている。月野家とは縁も深く、同家の内寺である観珠寺は、昔、此処にあったという。

金入道内の月野家は、当地きっての旧家で広大な邸宅内には精巧な造りの観音堂と地蔵堂が建てられている。

この周辺は、水原文化の発祥の地と目され、近くには宇輪台遺跡や田中道内遺跡があり、周辺には大日如来堂や熊野神社が祀られている。

8 水原山観積寺

寺方　C－1

本尊は観音菩薩像。観本は長谷寺、創立及び開基等は不詳であるが、既存する過去帳及び開基種紙の基ちに「元和元年正月二日スエ」（1615）とあることから、それ以前の開創と推定される。戦時中に失出した笈箱には「宝暦十法印賞賜」（1760）の銘があり、本堂修理録には「文化三年火責焦滅」（1806）と記載されている。

また、応永は時期に遡にあり、旧丹村家の内寺であったが解放され、下（しも）の寺として庵構や全国巡礼の寺院である。本堂には古いている木造の観音菩薩（千安地蔵）は、厚木市に ある子寺（こあい）地蔵と同じ日本三地地蔵像の一つと言われ、子台地蔵と最の高い宝具箱解等の荘厳地蔵とよく似ていることからその分置として調査研究を行いたいものである。

9 鹿島神社

脇ノ久保　C－1

水原字脇ノ久保の高台にあり、武甕槌命（タケミカヅチノミコト）を祀る。御神体は鏡である。本宮は半島島の鹿島の社家の中にある。明治２年（1869）新宮として分祠された。水原神社とともに非格社に付社となった。道路から百段あまりの長い石段を登ると広い境内にたどり着き、そこから水原の眺望を一望できる。神殿は三間四方の拝殿が備えられている。東日本大震災で基礎部分の石積が壊れたがすぐに修復された。

10 仙台内前遺跡

仙台内前　C－1

仙台内前遺跡は、水原小学校の南約 600mに位置する。昭和 62 年（1988）の発掘調査で、縄文時代草創期の型穴住居 1 棟と平安時代の型穴住居 1 棟、縄文時代、中世、近世の土坑などが見つかった。また、縄文時代草創期の石器を製作したあとも見つかっている。縄文時代草創期の型穴住居は福島市内では最初のもので、新代表記により約 10,000 年前に使われたと考えられている。住居跡は 4×3.2m の大きさで、火を焚いた跡は見つかっていない。写真の住宅の前に広がる広大な仙台内前遺跡である。

11 黒沼神社

宮ノ下　C－2

土蔵南道沿道の岩ノ下地区の石殿を貫りつめた丘陵に鎮座する。大花開刻紙絵（コノハナノサクヤヒメノミコト）を祭神として祀っている。御神殿には神明社・黒沼神社と併記されている。創建の年代は不詳であるが、曾は神明山の中腹にあったが土地所有者が変わったため、この地に遷座した。石段の左右、境内には信者により多くの石塔が立てられている。石段、社殿の周囲は全て下花の里公園として手入れされている。境内からは水原地区が一望できる。

12 関根石塔群

神明山　C－2

関根の神明山にある。かつては土蔵道路沿いにあった が、道路拡張により高所に移された。

大小無数の石塔が、その主なものは、宝暦 12 年（1762）の南無阿弥陀仏、文政 11 年（1828）の天照皇太神、地蔵尊（年期不明）、明和改元（1764）の南無妙法蓮華経や年納記録 供養 文久元年（1861）の道標山等があり、他に小塔が多く建てられている。中に薬師如来等多大の地蔵があり、これは猛僧木食（もくじき）上人に力かかる石碑があるらしい。

この頃第一期は神明神社の前でもんじを建設し、「神明もんじ山」として将来の公園化を目指している。ここからは吾妻小富士をバックに水原地区が一望できる。

13 宇輪台遺跡

右輪台　C－1

宇輪台遺跡はこれまでに 2 度の発掘調査が行われている。調査の結果、約 5,500 年前の縄文時代前期と約 4,000年前の縄文時代中期ムラが営まれていた事が分かった。ムラは日当たりのよい南斜面で丘陵頂上付近の平らなところで見つかっている。

約 5,500 年前の縄文時代前期の型穴住居は長さ 4m、幅 3mと、長さ 10m、幅 4mの 2 種類が見つかっている。約 4000 年前の縄文時代中期のムラは 9 棟の型穴住居と貯蔵穴が見つかっている。

現在は、遺跡内の道路にしだれ桜を植栽し、「右輪台のしだれ桜重本」として整備されている。

14 稲荷神社

上道谷地　D－1

道路から 20mほど杉木立の中を進むと「鳥神」の額のかかった鳥居が見えてくる。さらに 30mを上がると社殿が見えてくる。

祭神は素盞嗚尊（スサノオノミコト）。他に、八雲大神（ヤクモノオオカミ）と熱田大神（アツタノオオカミ）の 2 神を祀ってある。別名「天王様」とも呼ばれている。

祭りは旧暦 3 月 13 日に氏子により行われている。

麓や参道には花をモチが植えられ、春先の花の季節には華やかな景色が楽しめる。

15 八雲神社

上谷地　D－2

関係の石塔群から南へ水原川を渡り 500 mほど進むと高台に八雲神社が見えてくる。さらに 30mを上がると社殿が見えてくる。

祭神は素盞嗚尊（スサノオノミコト）。他に、八雲大神（ヤクモノオオカミ）と熱田大神（アツタノオオカミ）の 2 神を祀ってある。別名「天王様」とも呼ばれている。

祭りは旧暦 3 月 13 日に氏子により行われている。

麓や参道には花をモチが植えられ、春先の花の季節には華やかな景色が楽しめる。

16 上不動尊堂

不動前　D－2

水原地区の南端、静かな山麓の岩山の一角にある。不動明王を祀り、堂の周囲にある岩壁には巨石に線刻された三十三観音像がある。

建立年号は不明であるが、元和 3 年（1617）修復と記されており、江戸時代初期まで遡ると思われる。

三十三観音は岩壁に掘られ、風化して碑文も定かでないが、近年、縁起の岩の横に番号を刻した プレートが立てられ、参拝者に喜ばれている。

本堂の入口に掲げてある「不動尊」の額は、三島末美の書であり、原本が大切に保管されている。

17 日向山不動院

日向山　D－2

総本は京都の醍醐寺で本尊は不動明王（五大明王、八大明王の主尊格）である。天台宗の寺院。醍醐天皇の時代、延喜 21 年（921）日向山に開設されたと伝えられている。

天安 5 年（1057）源頼義（八幡太郎義家の父）が陸奥守として検象の定長職時、貞任追討の際、日向山の ご本尊に祈願を祈願し、その加護により統を平定することができた。願義はその霊験的たかなる仏としてこれを崇め奉り、浄財を寄進して日向山不動院を建立した。それ以来現在に至るまで近郷の種信住の人々は精魂公開山不動尊として信仰の厚く、尊崇している。

本堂の入口に掲げてある「不動尊」の額は、三島末美の書であり、原本が大切に保管されている。

18 風神・雷神神社

熊ノ田　C－2

松川西部に位置する熊ノ田集落の裏山（熊ノ田山）の頂上付近に鎮い、雷神、風神を祀る神社が ある。開口二間（3.6m）、奥行三間（5.4m）の木造営で、熊ノ田・仲ノ内集落旧家だけで講中をつくり、当番制で管理運営している。22 軒あった講員は現在では 14軒になった。

昔から、農民信仰の中で、雷と強風による被害が一番恐ろしく、雷神・風神を祀ることにより被害に遭わないように祈願したものである。春の預風と、夏の雷の発生する時期に同、台風の発生する夏の終わりに「伝統」に従って祭りを行っている。

19 西郷の夫婦桜・狐ノ稲荷神社

竹之内　C－2

夫婦桜のうち１本は、天正年間（1573～1592）に伊達政宗公が家臣に調査査閲してもらったところ、検定樹齢が 750～800年と診断された。このことからの桜は 1189 年建編朝が奥州征伐の折に宿地千軍の大集落を通過した際、集落の北西の地に鎮座する「狐ノ稲荷神社」にその成就祭日と神に対する礼を込め、神社境内の南に「しだれ桜」を女、北に「大どりがん桜」を男の夫婦に見立てて植えられたという言い伝えが夫婦桜の由縁として言う伝えている。

なお、狐ノ稲荷神社の由緒、動機年月は不明であるが倉敷境内（ウカノミタマノミコト）を祀り、八丁目三稲荷の一つとして信心されている。

20 經王山立正院

信夫隠　D－3

新馬鹿洗城山神で修百日の荒行を体験した日蓮上人（天文愛宕鉛跡）は紀元 4 年（929）この地にたどりついた。

そして昭和6年法華道場を開設して法華宗の寺院となる。昭和 21 年 8 月には寺号を立正院と改称。当寺は法華宗護の鬼子母神を祀ることから参詣者からは「鬼川のさしもじんん」と崇められている。昭和59年４月に現在の本堂の落成大法要が行なわれ、その年に再開された鬼宿祭が再開され、毎年４月29日に行なわれ、有内のますや別屋から約 1.7 キロの道のりを一度も雨に降られることなく現在まで続いているという。